

茨木市立文化財資料館 古文書教室体験版テキスト

はじめに—古文書解読の方法

江戸時代のくずし字は、青蓮院門主の尊円法親王が作ったもので俗に御家流と呼ばれています。これを読めるようになるには、ある程度、訓練が必要です。この体験版では、江戸時代の古文書の解読について、いくつかのポイントを紹介します。

①漢字・仮名交じりの文章

古文書は漢字・仮名交じりの文章になっています。大体は漢字で書かれていますが、仮名が使われている箇所もあります。厄介なのは、仮名と言っても、漢字のくずし字で書かれている点です。これは変体仮名と言います。「あ」だけでも、「安」「阿」「悪」などの漢字があてられています。

②漢文体で書かれている

古文書は、漢文体で書かれているため、返り点を補いながら、上に返って読む箇所があります。たとえば、「乍恐以書付御願奉申上候」は、「乍^レ恐以^ニ書付^一御願奉^ニ申上^一候」と返り点を補い、「恐（おそ）れながら書付（かきつけ）をもって御願（おねがい）申（もう）し上（あ）げ奉（たてまつ）り候（そうろう）」と読みます。このように、文末が「～候」で終わるのも江戸時代の古文書の特徴で、「候文体」と言います。御座候という表現は古文書でよく出てきます。

③漢字のくずし字は篇（へん）と旁（つくり）から推測する

漢字のくずし字は、くずし字辞典を使って調べます。くずし字辞典は、篇や旁ごとに漢字のくずし字が収録されています。漢字のくずし字は、まず篇や旁が何であることを推測して、辞典の中からくずしが似ている字を探し出します。大変地道な作業ですが、これが基本的な解読方法です。

【古文書解読の辞典（辞典）】

（初心者向け）

・林英夫・若尾俊平編『増訂・近世古文書解読辞典』（柏書房、1972年）

（中級者以上向け）

・児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、1993年）

・林英夫監修『新編・古文書解読辞典』（柏書房、1993年）

【テキストの解説】

テキスト 池上家文書

これは「手習帳」という史料からの抜粋です。手習いのための教科書として使われたものと考えられます。茨木市域の村の名前がくずし字で記されています。

十日市年

茨木主

原上野系 系上中系

日本畑田 下中條信

田中

賀穂積